

第2次甲賀市総合計画（第3期基本計画）

用語解説

用語	意味
スクラップ・リニューアル	一般的には「スクラップ・ビルド」。市の事業はスクラップ自体が非常に難しいうえ、新規事業を作り続けてきたことから、「スクラップ」も「ビルド」も困難となってきたことを背景として、業務の改善、効率化を意識して「リニューアル」としている。
地域マネージャー	地域支援員のこと。
中間支援組織	市民、企業、行政が協働を推進するうえで、行政と地域の上に立って様々な活動を支援する組織のこと。
アソシエーション型組織	ボランティア団体など、市民によって自主的に結成されるグループや団体のこと。
地域コミュニティ型組織	自治会など、生活圏域で形成される自主的な共同性によって成立する住民の団体や活動のこと。
ソーシャル・ビジネス	日常の暮らしや貧困、環境問題などの社会的課題の解決に向けて取り組むビジネスのこと。
LGBTQ+	Lesbian（女性同士性愛者）、Gay（男性同士性愛者）、Bisexual（両性愛者）、Transgender（心と体の性が一致しない人）、Queer（規範的な性のあり方以外を包括する言葉）、Questionig（自らの性のあり方について、特定の枠に属さない人、わからない人等）、+（プラス、その他様々な性の形）の総称として使用される言葉。
パートナーシップ（・ファミリーシップ）宣誓制度	一方または双方が性的マイノリティである二人が、人生のパートナーとして協力し合うことを宣誓し、自治体が二人の関係を公的に証明する制度。また、宣誓された方と生計を共にする家族等をファミリーとして併せて宣誓することができる。
アンコンシャス・バイアス	無意識の思い込みのこと。何かを見たり、聞いたり、感じたりしたときに無意識に「こうだ」と思い込むこと。
ダイバーシティ	国籍、性別、年齢などにこだわらず、様々な人材を積極的に活用し、多様な働き方などを受容する考え方。
SNS	ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略。インターネット上でパソコンやスマートフォンなどを使って会員同士が交流できるサービスのこと。
シティプロモーション	地域の魅力を内外に発信し、その地域へヒト・モノ・カネを呼び込み、地域経済を活性化させる活動のこと。
インナープロモーション	自治体の地域内に向けて当該自治体の特徴を訴求していく活動のこと。郷土愛の高まりやシビック・プライド（市に対する市民の誇り）の醸成を促進する。

用語	意味
温室効果ガス	大気圏にあって、地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより、温室効果をもたらす気体の総称。対流圏オゾン、二酸化炭素、メタン等が該当する。近年、大気中の濃度を増しているものあり、地球温暖化の主な原因とされている。
再エネ	再生可能エネルギーのこと。太陽光、水力、バイオマス、地熱、風力等、エネルギー源として地球の自然環境の中で繰り返し永続的に利用することができると思われるエネルギーのこと。
GX	グリーン・トランスフォーメーション（Green Transformation）のこと。グリーン・トランスフォーメーションとは、化石燃料に頼らず、太陽光や水素など自然環境に負荷の少ないエネルギーの活用を進めることで二酸化炭素の排出量を減らそう、また、そうした活動を経済成長の機会にするために世の中全体を変革していこうという取り組みのこと。
サーマル利用	廃棄物を燃料にしてその熱エネルギーを利用すること。
マテリアル利用	廃棄物を原材料として利用すること。
環境影響評価	環境アセスメントともいう。開発事業の内容を決めるにあたり、それが環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者自らが調査、予測、評価を行い、その結果を公表し、一般の方々、地方公共団体などから意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からより良い事業計画を作り上げていこうという制度のこと。
民間活力	政府・自治体に代わって民間部門の資本や経営によってそれを行うことを指す言葉。
ユニバーサルデザイン	障がいのある人や高齢者等に使いやすい配慮をするというバリアフリーの概念を超えて、障がいのある人や高齢者も含め、だれもが利用しやすい製品や環境をデザイン（考案）すること。
パークマネジメント手法	公園の活用や情報発信、イベント開催など、市民、民間、行政が連携して公園を運営する手法のこと。
里地里山	原始的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域のこと。
アール・ブリュット	フランス語で「生(き)の芸術」という意味。美術教育を受けていない人などが、既成の表現法にとらわれずに自由に制作した作品を指す。
レガシー	「遺産」や「伝統」のこと。「業績」や「功績」等「長年にわたる、特にポジティブな影響」を意味する。

用語	意味
ボッチャ	ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競うスポーツで、パラリンピックの正式競技になっている。ボールを投げることでできない選手は、ランプと呼ばれる投球補助具を使用することができる。
総合型地域スポーツクラブ	地域住民が主役となって自ら運営・管理をする新しいスポーツクラブのシステム。いろいろな種目を、様々な人々がその興味・関心や競技レベルを問わずそれぞれのスタイルで気軽に楽しむことができる。
地域共生社会	制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域住民など多様な人材が参画することで、住民一人ひとりが生きがいを感じられる社会を目指す取り組み。
アウトリーチ	ひきこもりや生活困窮者など支援が必要であるにもかかわらず届いていない人に対し、行政や支援機関などが積極的に働きかけること。
重層的支援体制	従来の縦割りを解消し、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制のこと。複数の課題が複雑に絡み合っている世帯や、どの制度にも当てはまらない狭間のニーズ等、従来の支援体制でケアできない事例の顕在化に対応するため、地域、行政、関係機関等が協力し、地域共生社会の実現に向けて取り組む。
ICT	インフォメーションアンドコミュニケーションテクノロジー（Information and Communication Technology）の略。情報通信技術のこと。インターネット等を活用し情報のやり取りを行う技術の総称。
マイ・タイムライン	一人ひとりに合った避難準備から避難完了までの行動計画のこと。大雨や台風の発生は事前に予測できることから、あらかじめマイ・タイムラインを作成しておくことで余裕を持った避難行動につなげることができる。
福祉避難所	高齢者や障がい者など、一般の避難所生活では支障をきたす要配慮者に対して、特別の配慮がなされた避難所のこと。
防災士	“自助”“共助”“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人のこと。
スマート農業	ロボット技術や ICT、AI 等の先端技術を活用し、省力化や生産物の品質向上を可能にする新しい農業のこと。ロボットトラクタやスマホによる水田の水管理システムなど。

用語	意味
CLT	ひき板を繊維方向が直行するように積層接着した木質系材料のこと。厚みのある大きな板であり、建築の構造材のほか、土木用材、家具などにも使用されており、日本の森林資源を有効活用することで、山林の保全や防災、環境保全にも役立つ持続可能性の高い取り組み。
ウッドスタート宣言	生まれた赤ちゃんに地域材で制作した木のおもちゃを誕生祝い品としてプレゼントする事業や、子育て環境に地域材を積極的に取り入れ木質化する事業といった「ウッドスタート活動」を始めること。「ウッドスタート活動」とは、木を真ん中においた子育て・子育て環境の整備をし、子どもをはじめとする全ての人たちが木のぬくもりを感じながら、楽しく豊かに暮らしを送ることができるようにしていく取り組みであり、「ウッドスタート」は認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会の登録商標。
循環型林業	木材として伐って使った後、再び苗木を植えて育て、森林を世代交代させて将来の木材資源を確保しながら、生物多様性の保全をはじめ、森林の持つ多面的な機能を発揮し、森林資源を持続的に活用していく取り組みのこと。
ジビエ	狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉を意味するフランス語。日本では、農作物への鳥獣被害増加とともに取り組みが拡大している。
D X	デジタル・トランスフォーメーション（Digital Transformation）のこと。デジタル・トランスフォーメーションとは、デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへ変革することを指す。それは、単なるアナログ情報のデジタル化にとどまらず、プロセス全体もデジタル化することで新たな価値を創造、その結果として社会的な影響・便益をもたらすもの。
インバウンド	外国人が訪れてくる旅行またはその旅行者のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。これに対し、自国から外国へ出かける旅行をアウトバウンドまたは海外旅行という。
産官学連携	企業（産）が技術シーズや高度な専門知識を持つ大学等（学）や公設試験研究機関等（官）と連携して、新製品開発や新事業創設を図ること。

用語	意味
間林清陽（間林精要）	甲賀市の指定文化財である甲賀・伊賀４９流の忍術をまとめたという忍術書「万川集海」のもとになった忍術書。「万川集海」は日本遺産「忍びの里伊賀甲賀～リアル忍者を求めて～」の構成文化財にもなっている忍術書であり、「万川集海」の冒頭「凡例」には「この万川集海は、初めから終わりまで「間林精要」の要点をまとめて用いて、伊賀・甲賀１１人の忍者が秘匿していた忍術や忍器のうち、時代に合わないものを捨て、合うものを選んでまとめたもの」と記載されている。
イクボス	職場で共に働く部下の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と生活を充実させている上司（ボス）のこと。
リ・スキリング	技術革新やビジネスモデルの変化に対応するために、新しい知識やスキルを学ぶこと。
チャレンジショップ	自らが企画、広報、接客、及び商品販売等を行い、一定期間お試しで出店すること。
交通 DX	デジタル技術を駆使して交通システム全体を革新し、移動の利便性、効率性、持続可能性を飛躍的に向上させようとする取り組みのこと。
シャレットワークショップ	建築、都市、まちづくりを学ぶ学生等、様々な専門家が対象地域周辺の将来像を図面や模型を用いてデザインし、地域に提案する活動のこと。
市街地のスポンジ化	市街地の内部において、空き家、空き地等が、小さな敷地単位で、時間的・空間的にランダムに、相当程度の分量で発生すること及びその状態。
こども家庭センター	市区町村において、子ども家庭総合支援拠点と子育て世代包括支援センターの設立の意義や機能は維持したうえで、全ての妊産婦、子育て世帯、こどもへ一体的に相談支援を行う機能を有する機関のこと。
ファミリーサポートセンター	保護者の仕事と、育児の両立支援および児童の福祉の向上を目的とする、「相互援助活動」を行う会員組織のこと。センターの仲介（アドバイザー）により、育児を手伝ってほしい人「おねがい会員」が、お手伝いのできる人「まかせて会員」に有料で、育児の支援をしてもらうことができる。
中１ギャップ	小学校から中学校に進学したときに、学習内容や生活リズムの変化になじむことができず、いじめが増加したり不登校になったりする現象のこと。
コミュニティスクール	保護者や地域が学校の様々な課題解決に参画し、それぞれの立場で主体的に子どもたちの成長を支えていく仕組み。

用語	意味
スペシャルサポートルーム（SSR）	校内教育支援センターのこと。学校には行けるけれど、自分のクラスには入れない時や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたい時に利用できる、学校内の空き教室等を活用した部屋。児童生徒のペースに合わせて相談に乗ったり学習のサポートを行う。
フリースクール	一般に不登校の子どもに対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行っている民間の施設。その規模や活動内容は多種多様であり、民間の自主性・主体性の下に設置・運営されている。
スクールソーシャルワーカー	社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、困難な状況にある児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する専門家のこと。
地域学校協働本部	多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制。「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。
デジタル格差	デジタル・ディバイド、情報格差ともいう。情報通信技術、特にインターネットの恩恵を受けることのできる人とできない人との間に生じる格差のことを指す。